

福井市との連携事業

リアルローカリズムCM作成プロジェクト

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

仁愛女子短期大学では福井市広報課と連携して、リアルローカリズム事業によるCM作成プロジェクトに取り組みました。福井の魅力をこれまでも様々な形で情報発信してきましたが、北陸新幹線の開業を控え、さらに多くの方々に向けて福井の魅力を発信するためには、まず福井に住む私たち一人ひとりがその魅力を知って再認識しなければなりません。そのためには、行政だけでなく、住民自身の「福井の好きなおとこ」を織り交ぜて、今までにはない新しい「福井愛」の形を作り出そう!ということで、CMのシナリオを広く一般公募して、福井市内の大学生がCMとして映像化するという事業となりました。

福井市役所が実施した公募には31作品のCMストーリーが集まり、そこから、選考会を経て、3つが選ばれました。

本学では、コミュニケーション演習I(1回生)ならびに専門演習(2回生)の授業の一環として取り組みましたが、学生たちは2~3名の7つのグループに分かれて、選ばれた3つのストーリーから1つを選択してCM動画の作成を行います。選ばれたストーリーの世界観や伝えたいことなどをどのように映像化すべきかを議論し、他の自治体のCM動画なども参考にしながら撮影をスタートさせました。実際に、日野川桜づつみや、えちぜん鉄道の駅構内、電車内で撮影をさせていただきましたが、イメージと実際の映像のギャップ(秋に桜をテーマにした映像を作っていくことなど)や、1分程度という短い時間に福井の魅力を伝える難しさを学ぶことができました。日野川桜づつみに取り組んだ学生からは、「制作の中で、育ってきた地元への愛情や、いろんなことを教えてくれた先人たちに対する感謝の気持ちを再認識することができました。その思いが、見た人にも伝わるといいなと思っています。」という感想も。今回のCM動画作成をとおして、情報技術・撮影技術だけでなく、地元福井の歴史や人々の暮らしを学び、文字通り、新しい「福井愛」が映像作品として形になったと感じています。

○各作品の内容とイメージ

1. 西藤島地区が誇る日野川桜づつみ

過去にたびたび氾濫した日野川。その堤防強化のために植樹された「桜づつみ」は、毎年変わらず咲き誇り、地域の人たちが世代を超えて守ってきたものを伝えてくれる。



2. 青い季節の風景画

えちぜん鉄道で通学していた友人二人が大学進学で離ればなれに。進む行先も違う二人が別れるその日、通学途中でいつも眺めていた福井の何気ない日常が、いとおしくかけがえのない風景になっていることに気づく。



3. なんにもない福井

「なんでもある」都会に憧れながらも、「なんにもない」からこそ自然や季節の移ろいの美しさを感じられると気づく。未来の私たちに福井の良さを残していく。



学生が作成したCM動画はどれも1分程度。福井市の公式YouTubeチャンネル「ふくチャンネル」での一般公開や、ハピリンの大型ビジョン、その他、福井市が主催するイベントで放映されています。ぜひご覧ください。